

フトイ

湖沼、ため池、河川に生育する大型の植物です。日本全国の湿地に生育し、北半球にも広く分布しています。茎は太い円柱形で、高さは1~2mになります。

夏から秋にかけて、茎の先に小さな花が集まった茶色の花序（かじょ）をつけます。水辺でまっすぐな長い茎を伸ばすフトイは、昔から日本人に好まれ、生け花の花材にされてきたため、観賞用に栽培されることもありました。

フトイに似てまっすぐな茎を伸ばし、フトイよりは草丈が低く茎が円柱形ではなく3稜形（断面が三角形）であることで区別できるサンカクイとカンガレイも、日本各地の浅い水中や湿地に生育します。いずれの種も群生（ぐんせい）し、広い面積に1種類の植物が密生（みっせい）することがあります。

富士市での現状

海に近い平地部の川や水路で、生育が確認されています。これらの生育地は、満潮時には水位が上がり、干潮時には水位が下がり、淡水と海水の影響を受ける「汽水域」です。サンカクイとカンガレイも、川の下流部で確認されています。3種とも、富士市での確認地点は限られていました。



フトイの生えている様子

フトイを確認したメッシュ

